

# 生物多様性総合評価報告書

平成 22 年 5 月 10 日

環境省 生物多様性総合評価検討委員会



## 序言

2010年は国際生物多様性年で、しかも日本の愛知県名古屋市で生物多様性条約の第10回締約国会議が開催される。まさに、日本にとっても、世界にとっても生物多様性の問題についての大きな節目に当たる年といえるだろう。生物多様性に関する科学も大きく進展し、私たちの日常生活にとって、生物多様性が欠かせないものであることという事実が、いろいろな局面で明らかになっている。一方では、1992年に生物多様性条約が採択されてから、20年になろうとしているが、いまだに社会の認識は大きくひろがったとはいえない。2010年を機会に、この状況を大きく変え、生物多様性を保全し、持続的に利用するという考え方にたった行動を、さまざまな立場から起こしていただきたい。そういう思いから、生物多様性総合評価検討委員会の座長をお引き受けした。

日本の生物多様性は、おそらく最近50年間で、これまでの歴史にないくらい大きな変化をした。その変化を引き起こしたのは、紛れもなく私たち人間の社会経済活動である。その結果として、日本の人たちは物質的には豊かで便利な生活を築き上げた。しかし、一方では、それと引き換えに日本固有の生き物や身近な生き物を失い、いろいろな弊害もひき起こしつつある。また、外国からも自然の恵みを大量に輸入することで、国外の人たちが享受すべき恵み（生態系サービス）を奪うような形になった場合もあったと思う。こうした変化をきちんと見直すことで、今後とるべき道を考えたい。その基礎となるのが、この生物多様性総合評価だと考えている。

このような総合的な評価は、生物多様性条約の事務局が公表している生物多様性概況（GBO）のほか、EU、英国、オーストラリアなどいくつかの例があり、この報告書はそれらに次ぐ先進的な試みである。しかし、2年間にわたる検討でようやく公表にこぎつけたものの、内容としては十分に満足しているわけではない。検討に必要な科学的データが少ないことや、生態系サービスの評価が十分でない、必ずしも具体的な行動オプションを十分示せていないなど、今後に残された課題は多いが、生物多様性の大きな状況とその問題点は示せたのではないかと考えている。この報告書をもとに、日本の生物多様性について考える時間を増やし、可能な行動に活かしていただければ幸いである。

最後に、この報告書を作成するにあたり、さまざまなデータの収集や委員会資料の準備などに奔走していただいた環境省自然環境局および自然環境研究センターの各位、データの提供にご協力いただいた行政機関、研究者、企業、NGOの方々に感謝します。

2010年5月10日

生物多様性総合評価検討委員会座長

中 静 透



# 目次

## 評価の概要

### 序章

第1節 生物多様性の評価が求められる背景	1
第2節 生物多様性総合評価の実施	3
1. 評価の目的	3
2. 評価の対象	3
3. 評価の枠組	3
4. 評価の体制	12

## 第I章 わが国の自然と社会経済

第1節 わが国の自然環境と生態系	13
1. わが国の自然環境	13
2. 生態系の概要	16
第2節 わが国の社会経済状況の推移	20
1. 1950年代後半～1970年代前半（昭和30年代～40年代）	20
2. 1970年代後半～1980年代（昭和50年代～60年代前半）	21
3. 1990年代～現在	22

## 第II章 生物多様性の損失の要因の評価

第1節 第1の危機の評価	25
1. 第1の危機	25
2. 第1の危機に含まれる損失要因の評価	25
3. 評価の理由	26
4. 損失への対策	42
第2節 第2の危機の評価	54
1. 第2の危機	54
2. 第2の危機に含まれる損失要因の評価	54
3. 評価の理由	55
4. 損失への対策	60
第3節 第3の危機の評価	68
1. 第3の危機	68

2. 第3の危機に含まれる損失要因の評価	68
3. 評価の理由	69
4. 損失への対策	75
<b>第4節 地球温暖化の危機の評価</b>	<b>81</b>
1. 地球温暖化の危機	81
2. 地球温暖化の危機に含まれる損失要因の評価	81
3. 評価の理由	82
4. 損失への対策	87
<b>第5節 損失への対策の基盤</b>	<b>90</b>

### 第III章 生物多様性の損失の状態の評価

<b>第1節 森林生態系の評価</b>	<b>97</b>
1. 森林生態系における損失の評価	97
2. 評価の理由	98
3. 損失への対策	109
<b>第2節 農地生態系の評価</b>	<b>114</b>
1. 農地生態系における損失の評価	114
2. 評価の理由	115
3. 損失への対策	124
<b>第3節 都市生態系の評価</b>	<b>129</b>
1. 都市生態系における損失の評価	129
2. 評価の理由	130
3. 損失への対策	135
<b>第4節 陸水生態系の評価</b>	<b>138</b>
1. 陸水生態系における損失の評価	138
2. 評価の理由	139
3. 損失への対策	151
<b>第5節 沿岸・海洋生態系の評価</b>	<b>158</b>
1. 沿岸・海洋生態系における損失の評価	158
2. 評価の理由	159
3. 損失への対策	172
<b>第6節 島嶼生態系の評価</b>	<b>179</b>
1. 島嶼生態系における損失の評価	179
2. 評価の理由	179
3. 損失への対策	183

## 第 IV 章 評価の総括

第 1 節 2010 年までの生物多様性の損失	189
1. 2010 年までの生物多様性の損失の評価（総括）	189
2. わが国の生物多様性の損失と生態系サービス	198
第 2 節 2010 年目標の達成状況の評価	204
1. 2010 年目標とは	204
2. わが国における 2010 年目標の達成状況の評価	204
第 3 節 2010 年以降の生物多様性の損失への対応	224
1. 2010 年以降の生物多様性の損失	224
2. 第 1 の危機に関する損失と対応	226
3. 第 2 の危機に関する損失と対応	228
4. 第 3 の危機に関する損失と対応	229
5. 地球温暖化の危機に関する損失と対応	229
6. 不可逆的な変化による影響	230
7. 生物多様性の主流化	231

## 第 V 章 今後の課題

第 1 節 観測からのインプットにかかる課題	234
1. 生物多様性に関する観測の充実	234
2. データの公開性・利用の容易さの向上	234
3. 要因や対策まで含めたデータの提示	235
4. 生態系サービスや「転換点」についての知見の充実	235
5. 損失の大きな生態系などの観測の重点化	235
第 2 節 目標設定へのアウトプットにかかる課題	236
1. ポスト 2010 年目標との関係づけ	236
2. 評価の空間的スケールの重層化	236
第 3 節 行動へのアウトプットにかかる課題	237
1. 国民等への普及啓発	237
2. 生物多様性に関する評価の地図化	238
3. 生態系サービスの評価	238
4. 行動の選択肢の提示	238

### 巻末資料

巻末資料 1 有識者アンケートの結果

巻末資料 2 有識者意見照会の結果

- 巻末資料 3 生物多様性総合評価報告書に用いたデータの引用文献
- 巻末資料 4 生物多様性総合評価報告書で用いたデータ